

調査の概要

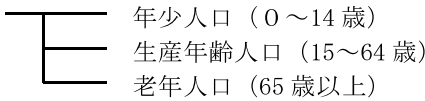
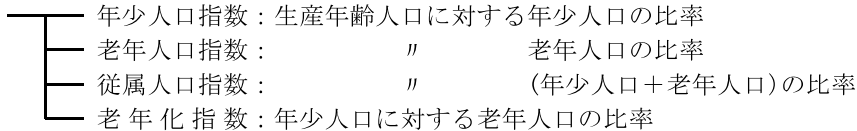
- 1 根拠要領：神奈川県年齢別人口統計調査事務処理要領
- 2 調査時期：令和3年1月1日午前零時現在
- 3 調査方法

この調査は、令和2年国勢調査の調査票情報を独自集計した年齢別人口を基礎とし、市町村長の報告に基づく住民基本台帳法及び戸籍法に定める出生、死亡、転入、転出の年齢別異動人口を加減して毎年1月1日現在の年齢別人口を算出し、県でとりまとめたものです。

- 4 地域別市町村名

| 地域名 | 市町村名 |
|-------|--|
| 横 浜 | 横浜市 |
| 川 崎 | 川崎市 |
| 横須賀三浦 | 横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町 |
| 県 央 | 相模原市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村 |
| 湘 南 | 平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町 |
| 県 西 | 小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町 |

用語の解説

- 1 年 齢：調査日前日による満年齢
- 2 年齢（3区分）別人口 
- 3 年齢構造指数 

- 4 性 比：女性100人に対する男性の数

- 5 平均年齢の算出方法

$$\text{平均年齢} = \frac{\text{年齢(各歳)} \times \text{各歳別人口の和}}{\text{総人口} - \text{年齢不詳人口}} + 0.5 \text{ (満年齢後の経過月数調整値)}$$

(小数点第3位以下切り捨て)

利用上の注意

- 1 神奈川県年齢別人口統計調査は、国勢調査による年齢別人口を基礎として推計し、本県が昭和51年から毎年1月1日現在にて実施しているものです。本報告書に使用しているそれより前の数値は、総務省が大正9年から5年ごとに実施している国勢調査結果（各年10月1日現在）を使用しています。
- 2 人口の総数には年齢不詳を含んでいますが、構成比は年齢不詳を除いて算出しています。
- 3 年齢不詳は、国勢調査結果における、年齢「不詳」の数値に基づく推計値です。
- 4 数字の単位未満は四捨五入してあり、合計の数字と内訳の計が一致しない場合があります。
- 5 全国の数値は、「人口推計」(総務省統計局) (<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/2.htm#monthly>) を使用しています。
- 6 解説中に用いている「ポイント」とは、比率の差を表します。「ポイント」は小数点第2位以下の数値で算出しているため、表上の数値と一致しない場合があります。
- 7 転入、転出には、県内市区町村間の移動を含みます。
- 8 該当数値がマイナスのものは、当該数値の前に「-」又は「△」を付けて表記し、該当数値がないものは、「-」で表記しています。
- 9 異動人口に関する項目（「第2表 年齢別異動人口」等）は、国勢調査翌年のため掲載していません。
- 10 国は、令和2年国勢調査結果の概要書における年齢別人口について、年齢「不詳」の数値をあん分等によって補完した不詳補完値を算出し、参考値として採用していますが、本報告書は原数値を基礎として作成しています。

調査結果の概要

1 年齢（3区分）別人口

(1) 令和3年1月1日現在の神奈川県の新人口は、923万6337人(男性458万6915人、女性464万9422人)です。

年齢(3区分)別人口は、年少人口(0～14歳)108万2584人、生産年齢人口(15～64歳)562万7503人、老年人口(65歳以上)231万2173人となり、老年人口が年少人口を122万9589人上回っています。【図1、図2、表1、表3参照】

(2) 昭和51年1月1日現在の調査(調査開始年)と比較すると、総人口は281万3503人の増加、年少人口は55万7845人の減少、生産年齢人口は118万9713人の増加、老年人口は197万1208人の増加となっています。

なお、調査開始以来、年少人口は最も少なく、老年人口は最も多くなっています。

【図1、図2参照】

(3) 令和2年1月1日現在の調査(以下「前年調査」という)と比較すると、総人口は3万4512人の増加、年少人口は1万1818人の減少(平成22年1月1日現在以降対前年12年連続減少)、生産年齢人口は8万5297人の減少、老年人口は476人の増加(調査開始以来一貫して増加)となっています。【図2、表1、表6、表11参照】

(4) 年齢(3区分)別人口の構成比は、前年調査に比べ、年少人口は横ばいで12.0%(全国値11.9%)、生産年齢人口は0.3ポイント低下し62.4%(同59.5%)、老年人口は0.3ポイント上昇し25.6%(同28.6%)です。【図3、表1、表6参照】

(5) 年齢構造指数をみると、年少人口指数は19.2、老年人口指数は41.1、従属人口指数は60.3で、生産年齢人口100人に対して年少人口及び老年人口が60.3人の割合となります。老年化指数は213.6で、年少人口100人に対し老年人口213.6人の割合となります。

なお、全国値は年少人口指数20.0、老年人口指数48.0、従属人口指数68.0、老年化指数240.6であり、県はいずれの数値も全国値より低くなっています。【図4、表2参照】

年齢（3区分）別人口及び構成比

| 年齢(3区分) | 令和3年 | | 令和2年 | | 増減 | | 全国(令和3年) | |
|--------------------|-----------|--------|-----------|--------|---------|-------------|----------|--------|
| | 人口(人) | 構成比(%) | 人口(人) | 構成比(%) | 人口(人) | 構成比の差(ポイント) | 人口(千人) | 構成比(%) |
| 総数 | 9,236,337 | — | 9,201,825 | — | 34,512 | — | 126,068 | — |
| 年少人口 (0～14歳) | 1,082,584 | 12.0 | 1,094,402 | 12.0 | △11,818 | △0.0 | 14,983 | 11.9 |
| 生産年齢人口 (15～64歳) | 5,627,503 | 62.4 | 5,712,800 | 62.6 | △85,297 | △0.3 | 75,033 | 59.5 |
| 老年人口 (65歳以上) | 2,312,173 | 25.6 | 2,311,697 | 25.4 | 476 | 0.3 | 36,051 | 28.6 |

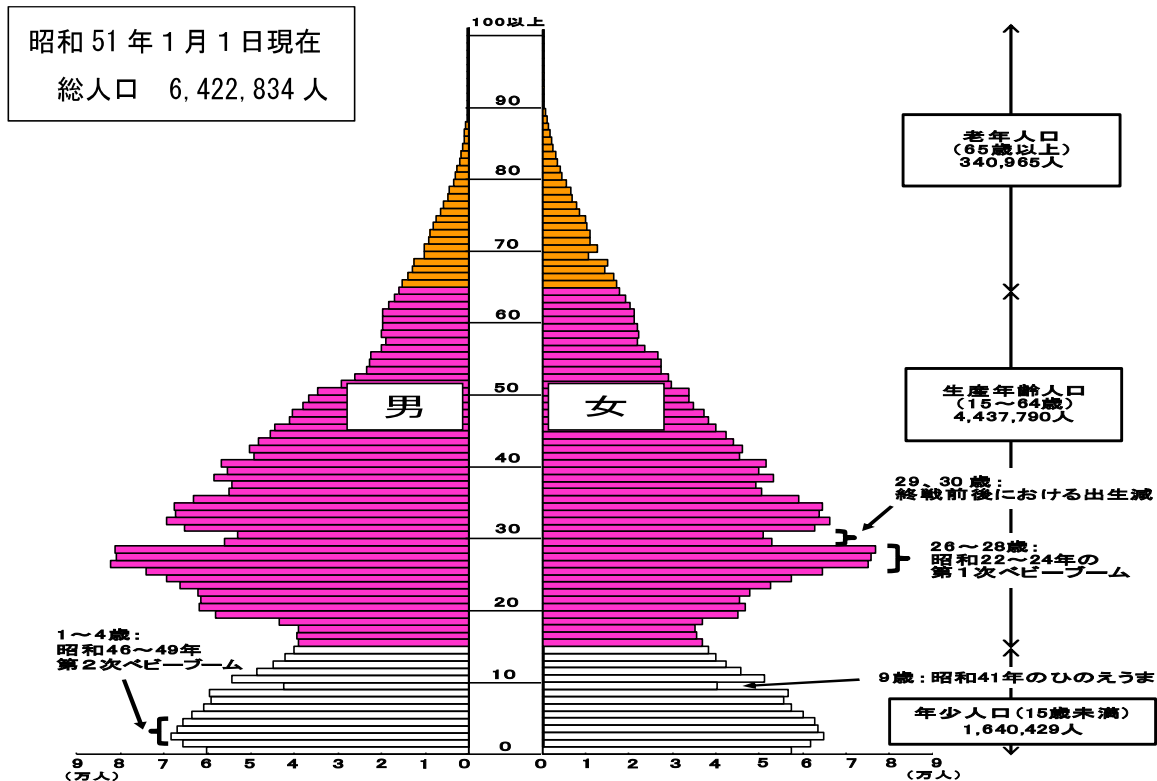
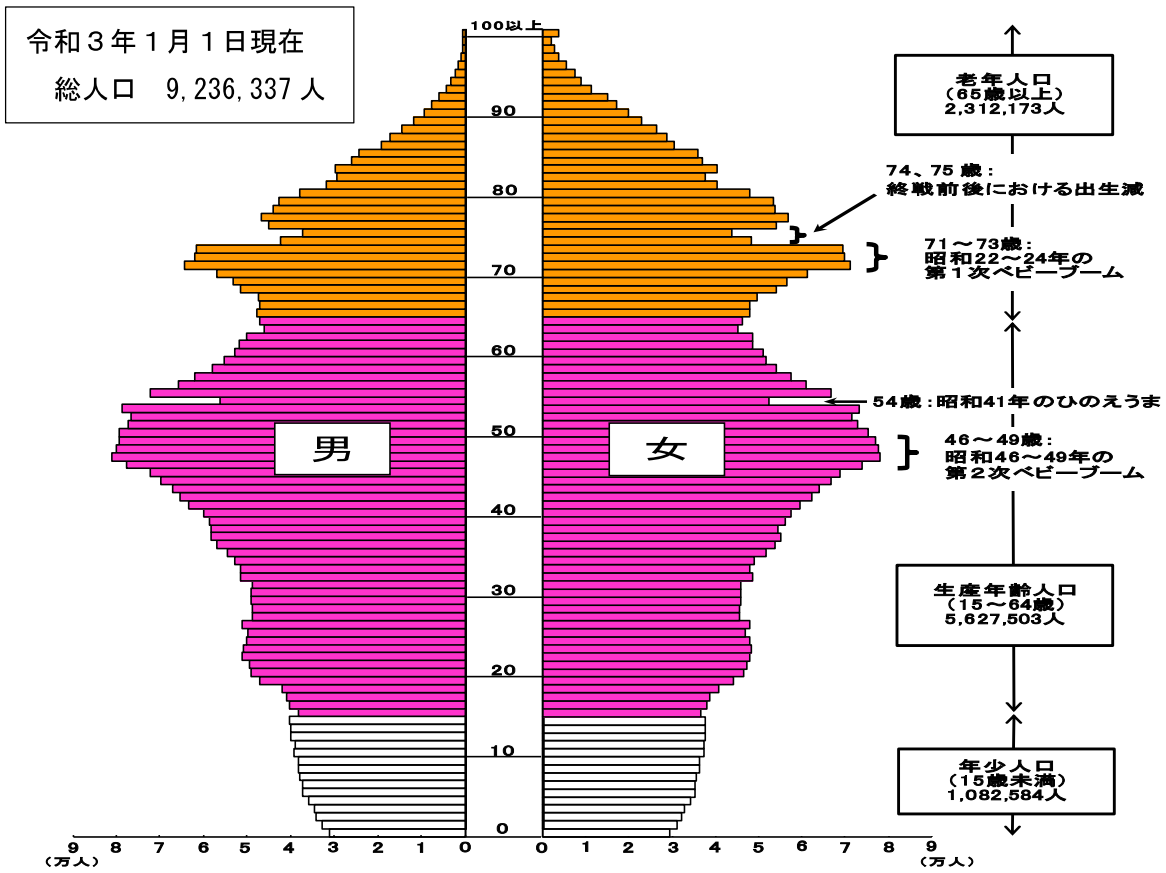
(注) 1 神奈川県の総数には年齢不詳を含むため、合計は一致しない。

2 神奈川県の構成比は年齢不詳を除いて算出している。

3 全国の数値は、「人口推計」(総務省統計局)の令和3年1月1日現在人口(確定値)を使用している。

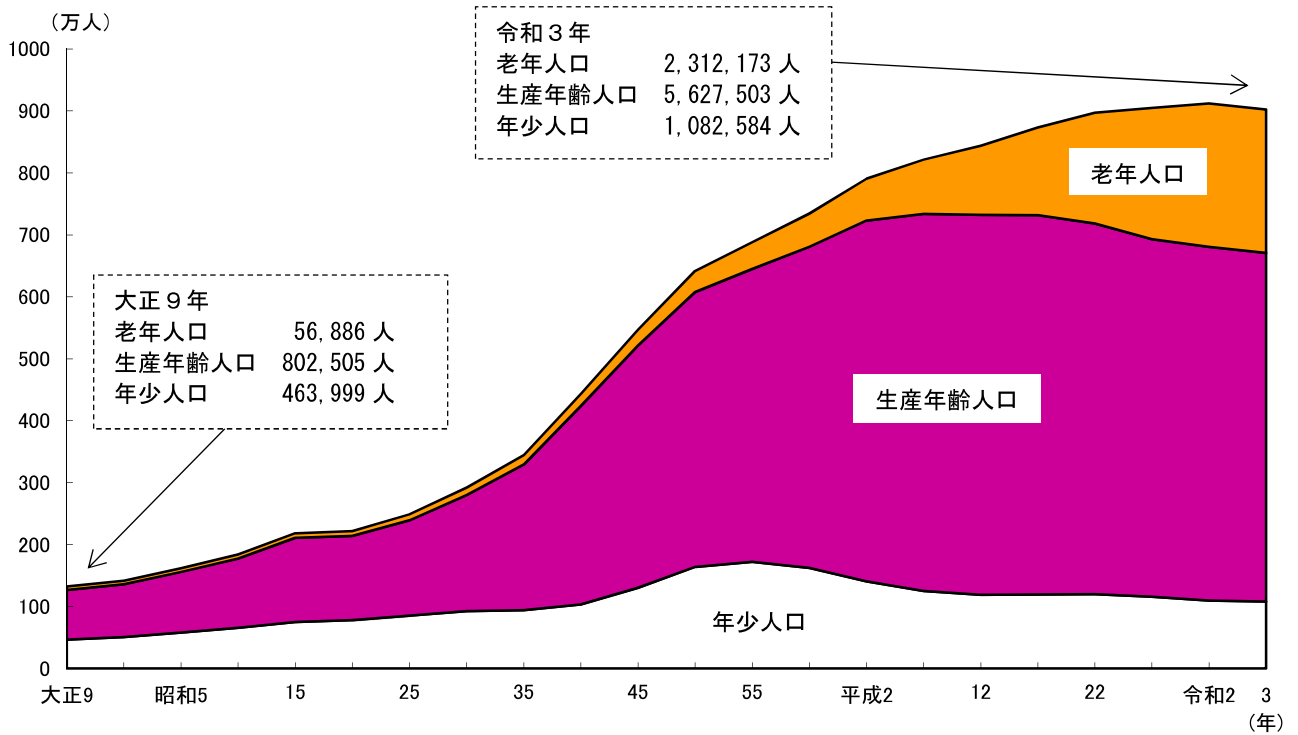
4 構成比の差(ポイント)は小数点第2位以下の数値で算出しているため、表上の数値と一致しない場合がある。

図1 人口ピラミッド〈年齢（各歳）、男女別人口〉
 (昭和51年（神奈川県年齢別人口統計調査開始年）との比較)



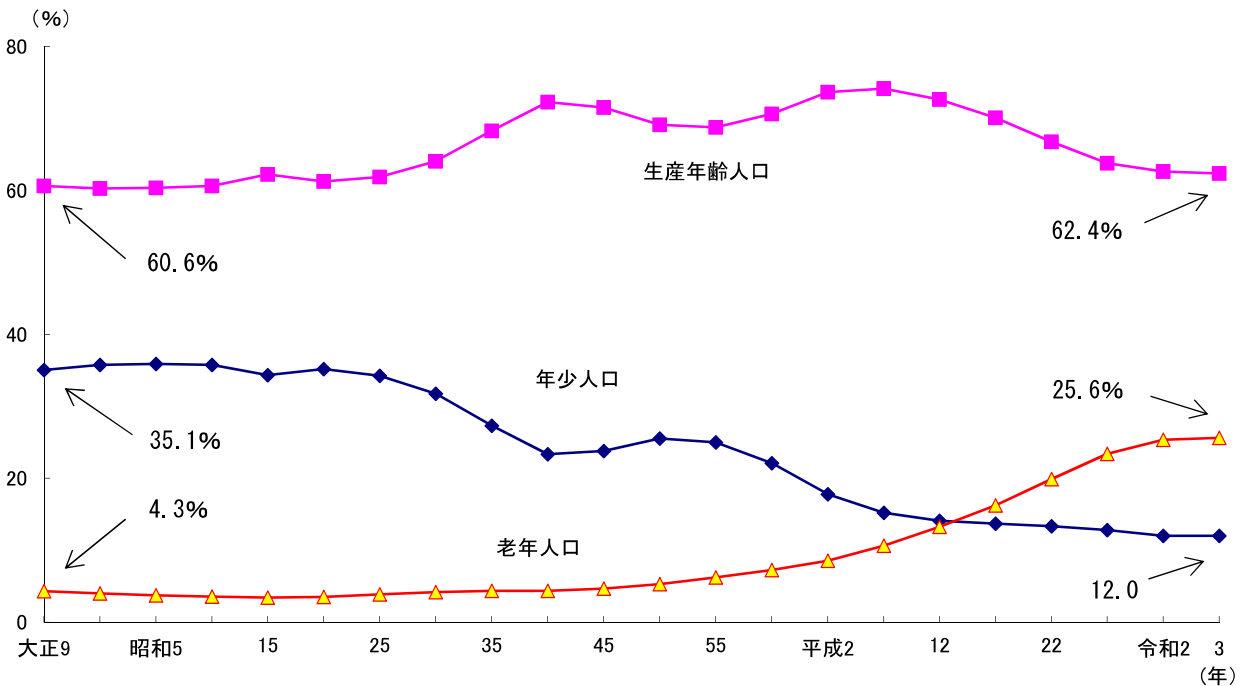
(注) 人口ピラミッドには年齢不詳は含まない。

図2 年齢（3区分）別人口の推移



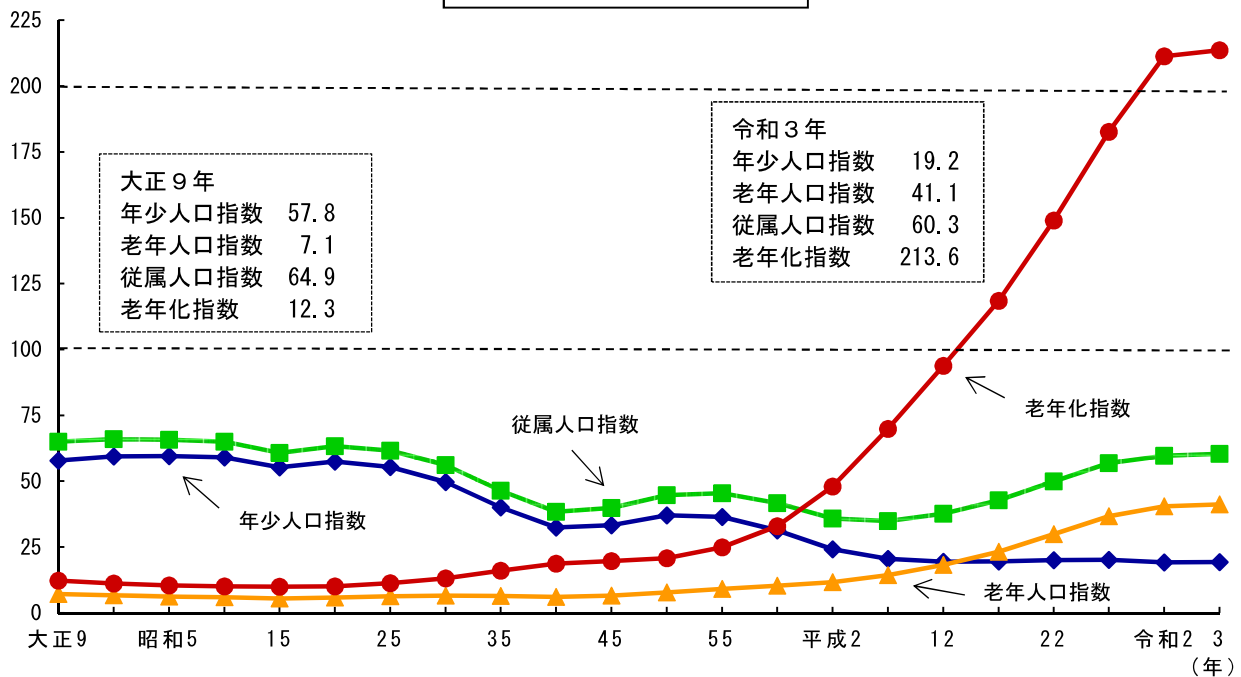
(注) 大正9年から昭和50年までは、国勢調査結果(10月1日現在)による。

図3 年齢（3区分）別人口構成比の推移



(注) 1 構成比は年齢不詳を除いて算出している。
 2 大正9年から昭和50年までは、国勢調査結果(10月1日現在)による。

図4 年齢構造指数の推移



(注) 大正9年から昭和50年までは国勢調査結果(10月1日現在)による。

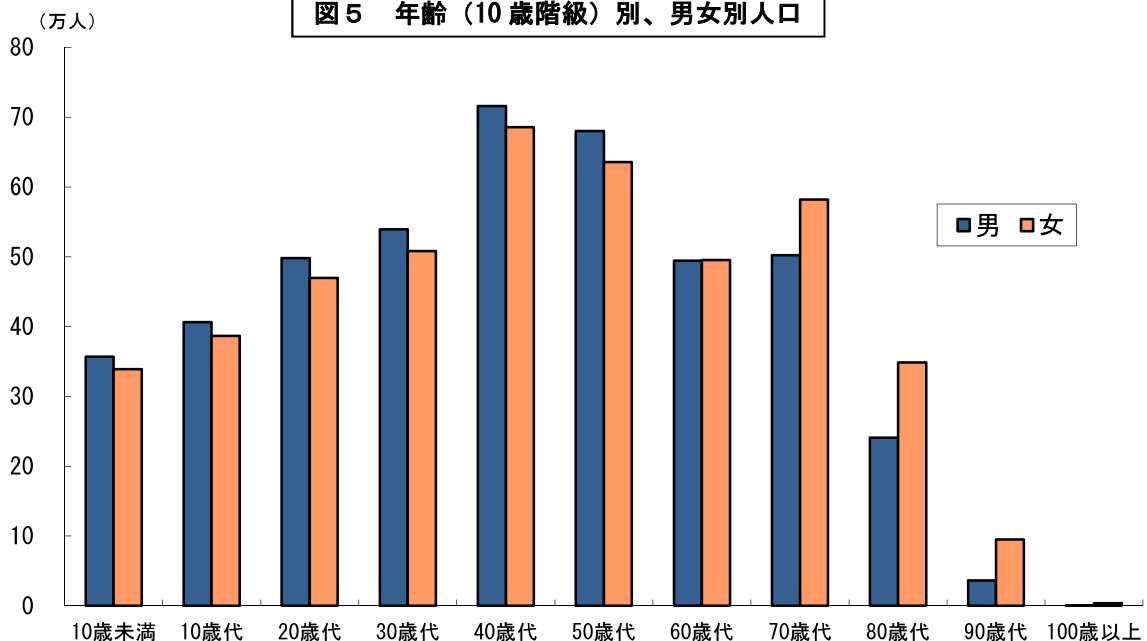
2 年齢(10歳階級)別人口

- (1) 年齢(10歳階級)別人口は、40歳代が140万1516人(人口構成比15.5%)と最も多く、次いで50歳代の131万6240人(同14.6%)、70歳代の108万4403人(同12.0%)の順となっています。【表3、表9参照】
- (2) 前年調査より10歳未満、10歳代、20歳代、30歳代、40歳代、60歳代、100歳以上の人口は減少し、50歳代、70歳代、80歳代、90歳代の人口は増加しています。【表3、表9参照】
- (3) 男女別人口でみると、男性では40歳代が71万5730人(男性に占める割合は16.0%)と最も多く、次いで50歳代の68万367人(同15.2%)、30歳代の53万9412人(同12.1%)の順となっています。

女性では40歳代が68万5786人(女性に占める割合は15.1%)と最も多く、次いで50歳代の63万5873人(同14.0%)、70歳代の58万2232人(同12.8%)の順となっています。

【図5、表3参照】

図5 年齢(10歳階級)別、男女別人口



3 性 比

(1) 総人口を男女別にみると、男性が458万6915人、女性が464万9422人で、女性が6万2507人多く、性比(女性100人に対する男性の数)は98.7です。前年調査と比べると0.7ポイント低下していますが、全国値(94.7)と比べると4.0ポイント上回っています。

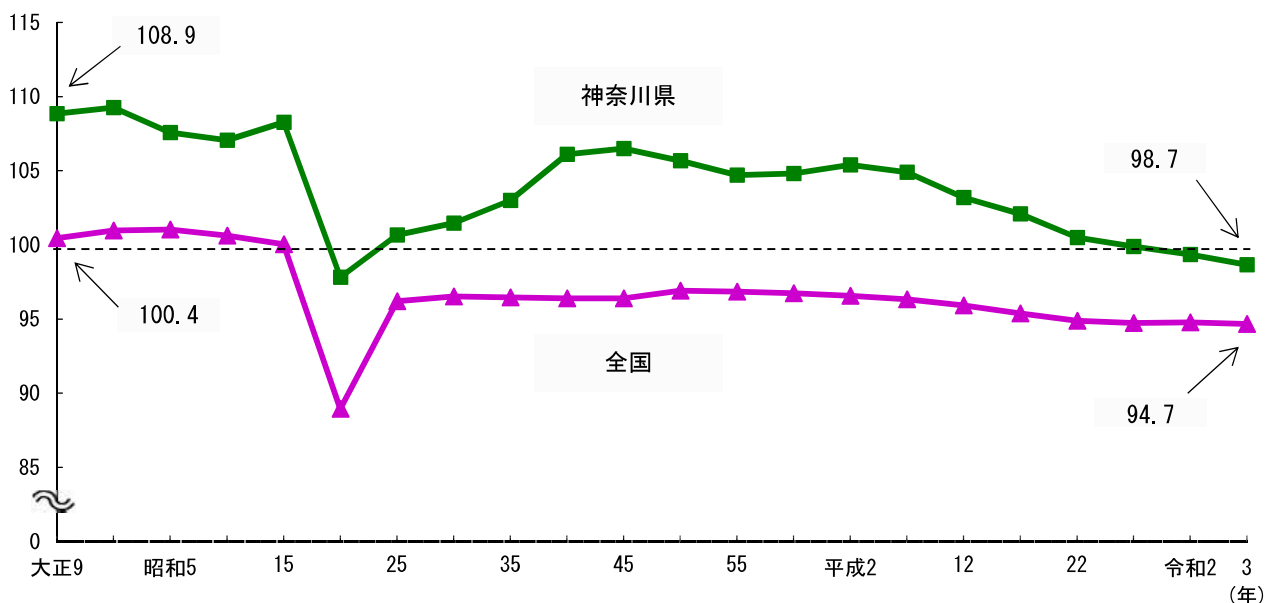
なお、昭和20年を除き、大正9年から平成26年(100.1)までは100以上でしたが、27年(99.9)から100未満となっています。【図6、表4参照】

(2) 年齢(5歳階級)別の性比は、0～4歳から60～64歳までは100以上で、55～59歳が107.4と最も高く、続いて25～29歳(106.8)、30～34歳(106.7)の順です。

65～69歳以上はすべて100未満となっており、55～59歳より上の年齢階級では年齢が高くなるにつれ低くなり、100歳以上の性比は15.7です。

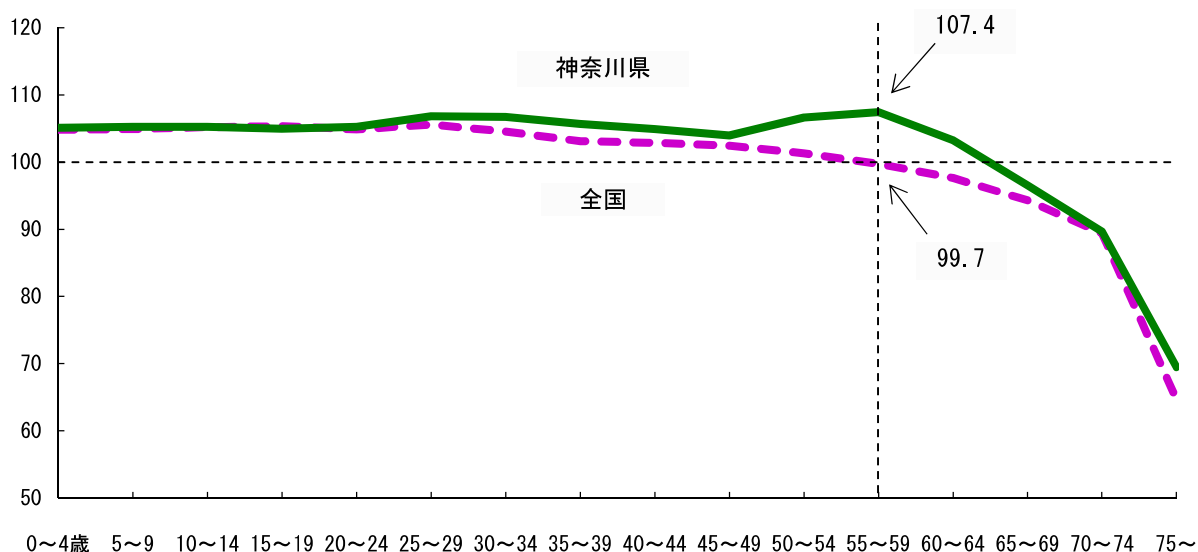
全国と比べると15～19歳を除くすべての年齢階級で上回っています。【図7、表4参照】

図6 性比の推移



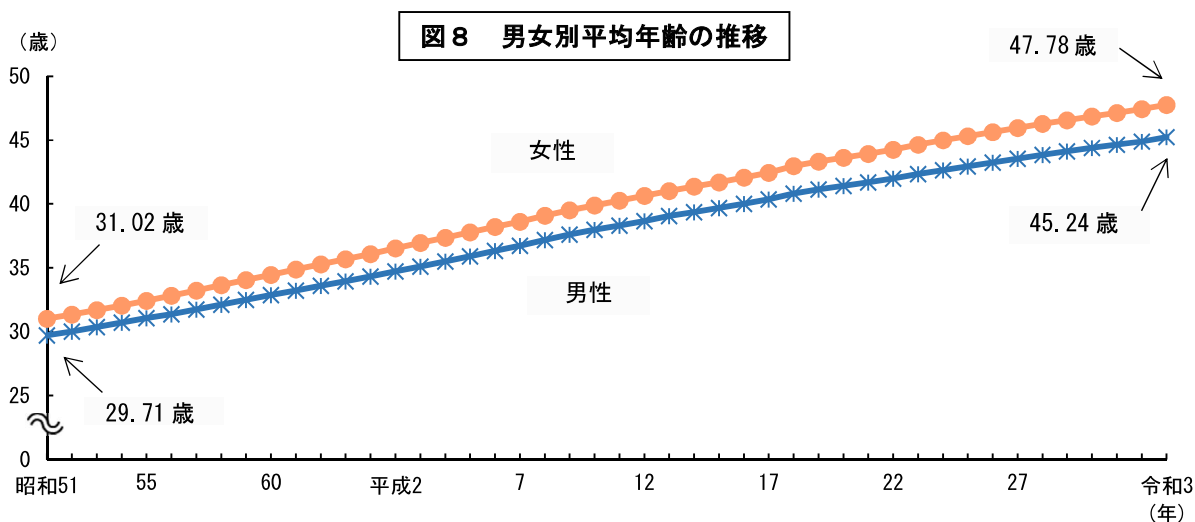
(注) 大正9年から昭和50年までは、国勢調査結果(10月1日現在)による。

図7 年齢(5歳階級)別性比



4 平均年齢

- (1) 平均年齢は46.52歳で前年調査に比べ0.35歳高くなっています。【表5参照】
- (2) 男女別平均年齢は、男性が45.24歳(前年調査に比べ0.35歳上昇)、女性が47.78歳(同0.34歳上昇)で、男女を比べると女性が2.54歳高くなっています。なお、昭和51年(調査開始年)から男女ともに一貫して上昇しています。【図8、表5参照】
- (3) 県内6地域別の平均年齢が最も高い地域は横須賀三浦地域で50.09歳、次に県西地域で50.00歳、最も低い地域は川崎市で43.75歳、次に横浜市で46.42歳となっています。
また、市区町村別では真鶴町(56.87歳)が最も高く、中原区(41.26歳)が最も低くなっています。【表7、表10参照】



5 地域別、年齢(3区分)別人口の構成比

- (1) 年齢(3区分)別人口構成比を地域別にみると、年少人口の構成比が最も高い地域は川崎市で12.7%、次に湘南地域で12.3%、最も低い地域は県西地域で10.6%、次に横須賀三浦地域で10.7%です。
市区町村別では都筑区(15.1%)が最も高く、箱根町(6.4%)が最も低くなっています。【図9、表6、表10参照】
- (2) 生産年齢人口の構成比が最も高い地域は川崎市で67.1%、次に横浜市で63.0%、最も低い地域は横須賀三浦地域で56.8%、次に県西地域で56.9%です。
市区町村別では中原区(71.3%)が最も高く、湯河原町(49.5%)が最も低くなっています。【図9、表6、表10参照】
- (3) 老年人口の構成比が最も高い地域は県西地域で32.5%(32.51%)、次に横須賀三浦地域で32.5%(32.48%)、最も低い地域は川崎市で20.2%、次に横浜市で25.1%です。
市区町村別では真鶴町(43.7%)が最も高く、中原区(15.4%)が最も低くなっています。【図9、表6、表10参照】

図9 地域別、年齢(3区分)別人口の構成比

